

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院	実施機関名・連携機関名 福島大学大学院人間発達文化研究科教職実践専攻（教職大学院）
等コラボ研修プログラ	テーマ：学び続ける教師コミュニティ：福島県の新たな教育実践をめざす研修プログラム
ム支援事業報告書	研修等名：【NITS・福島大学コラボ研修】 ・学び続ける教師コミュニティ 2021 夏教育実践福島ラウンドテーブル ・学び続ける教師コミュニティ 2022 春教育実践福島ラウンドテーブル 主タイトル：学び続ける教師コミュニティ 副タイトル：福島県の新たな教育実践をめざす研修プログラム
	【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2021 夏教育実践福島ラウンドテーブル 開催日時：令和3年8月21日 10時～16時 開催場所：福島大学（福島県福島市金谷川1番地） 参加人数(総数)と参加者の属性：(133人) 教員67人、学校管理職4人、研究者18人、行政職・指導主事24人、学部生4人、大学院生11人、その他5人
	【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2022 春教育実践福島ラウンドテーブル 開催日時：令和4年2月19日 10時～16時 開催場所：福島大学（福島県福島市金谷川1番地） 参加人数(総数)と参加者の属性：(160人) 教員86名、学校管理職8名、研究者24名、行政職・指導主事21名、学部生・学類生6名、大学院生8名、その他7名

内容：

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2021 夏教育実践福島ラウンドテーブル

令和3年8月21日、午前の部で参加者全体を対象とした基調講演がオンラインにより開催された。講演に先立ち、主催者を代表して福島大学大学院人間発達文化研究科長の初澤敏生氏より挨拶があり（写真1）、その後10:10～12:00まで、赤堀博行・帝京大学大学院教授（写真2）により、「道德教育マネジメントー道德科を要とした道德教育の改善・充実ー」をテーマに基調講演が行われた。

本講演では、道德教育の法的な背景や、特別の教科 道德になった経緯とその理由などが分かりやすく説明され、さらに道德教育の充実は各学校のカリキュラム・マネジメント力によるところが大きいことなども話された。また、道德教育の要としての道德科の授業の進め方や評価、授業改善などについて、実際の授業場面を通して氏の考えが示された。



写真1



写真2

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2022 春教育実践福島ラウンドテーブル

令和4年2月19日、午前の部で参加者全体を対象とした基調講演がオンラインにより開催された。前回同様、講演に先立ち、主催者を代表して初澤敏生氏より挨拶があり、その後10:10～12:00まで、高橋純・東京学芸大学准教授(写真3)により、「学びの質を高める児童生徒一人一台端末の活用」をテーマに基調講演が行われた。

本講演では、GIGAスクール構想において、クラウド技術の採用により安価に児童生徒一人一台端末の整備が実現した。それにより、クラウド活用の特徴の一つである情報共有や協働活動のしやすさを生かすことが重要になる。そして、それが協働的な活動など学びの質を高めることにつながっていくことなど話された。一方で、クラウド活用は使ってみて初めて従来との違いが分かることも多く、そのための基礎的な取り組みが欠かせないとし、最初の一步の実践からその発展までの重要なポイントについて、学校現場での活用事例を紹介しながら、具体的な提案がなされた。講演後、約10分間質疑（参加者2人の質問をもとに）が行われた。



写真3

成果：

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2021 夏教育実践福島ラウンドテーブル

◆赤堀博行氏の基調講演に関する参加者の声（64 件の自由記述あり。下記に具体例を記す。）

- ・道徳教育をより良いものにするためには、担任の先生が一人でやるのではなく、校長先生をはじめとした様々な先生方と情報共有し話し合いながら進めていくことが大切なのだと感じた。また、いじめのように、生徒の実態を把握し、それに寄り添った「生徒自身が自分のこととして捉え、考えられる授業」を行うことで、目標が明確化された授業を構成することができると学ぶことができた。
- ・自分事として考えさせることを意識して「自分だったらどうする？」という発問をよくしてきたが、確かにこの発問では表面的な発言や考えしか出てこないと思った。現在の自分自身についての理解が前提であるというお話には納得した。また、道徳主任の時に別葉は教科書会社が作ったものを参考に使っていたが、子供達の実態をもとにきちんと先生方との話し合いにより作成しないとただ作っただけで終わってしまうと思った。授業にしてもカリキュラム・マネジメントにしても、教師が意図をもって指導することが大切であることを実感した。
- ・「実践の指導」と「内面の育成」のお話が参考になった。他教科との関連については、これまでも意識してはいたが、例えば音楽の「ふるさと」の例をお聞きし、同じ題材でも扱い方の可能性がいろいろあることがわかった。だからこそ、育成したい子どもの姿を学校として具体的に共有し、目標をつくるだけでなく意識して指導を行えるようにすることが大切だと思った。

【NITS・福島大学コラボ研修】学び続ける教師コミュニティ 2022 春教育実践福島ラウンドテーブル

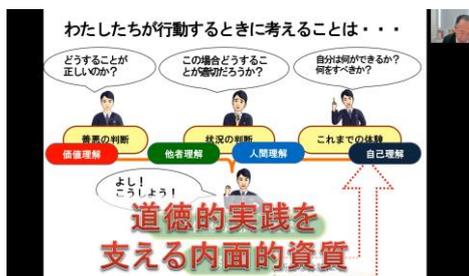
◆高橋純氏の基調講演に関する参加者の声（57 件の自由記述あり。下記に具体例を示す。）

- ・現在本校でも ICT の活用を推進しているので新しい授業の在り方について考えるきっかけとなった。GIGA スクール構想における授業は、タブレット端末を既存の学習（授業）スタイルに当てはめていくものではなく、タブレット端末の活用をベースにして学習（授業）を構築していく必要があることが理解できた。学びの本質的なところ（目的）は変わらないが、授業（手段）の部分で大きな変化が今後生じてくる。我々の授業観について再度、見つめ直し同僚と共有していくことが早急に必要であると感じた。
- ・今回の講演を通して、より子どもたちの学びの一助となり、子どもの思考を引き出したり表現したりするようなツールとして「活用」していけるよう努めたいと感じた。
- ・大変わかりやすいお話でした。ICT 利用に関して、普段悩んでいることや、どのようにしたらよいかということについて事例をふまえた実際的なお話を聞くことができ、勉強になった。
- ・「ICTに慣れる」の言葉に納得した。教師が慣れなければ自信をもって使えない。どんどん使って慣れていきたい。
- ・普段の学校業務で手いっぱいだったため、全国の事例等を調べる機会があまりなかった。今回の講演を通じて ICT に関する新たな考え方や今までにない新たな視点を持つことができ非常に参考になった。

アイデアや工夫したこと：

- 従来はラウンドテーブルへの参加をメールや電話で申し込んでもらっていたが、今年度はネット上でシステム入力できるようにした。また参加後のアンケートも同様に入力できるようにするなど参加者に便利な方法を取り入れた。
- 県内広い範囲での広報を行うため、福島の新聞社を訪問して開催情報を伝え、新聞への記事掲載を依頼したり、県内の情報誌にも掲載依頼をした。また、大学他の H.P 等を通じて県内外への情報提供にも努めた。
- 今年度はオンラインによる開催となったが、特に午前の基調講演が参加者全員に問題なく聴取してもらえるよう、事前に講演者とリハーサルを行うなど準備をした。
- 午後の少人数によるラウンドテーブル開催に際し、各テーブルへの連絡事項や配布資料、日程などラウンドテーブル実行委員会事務局で綿密な計画を立てて各ファシリテーターに連絡・依頼した。また、ラウンドテーブル実施中のトラブル等への対応として、オンライン機器担当の事務系職員に待機・対応してもらった。

2021 夏 講演での提示資料例



2022 春 講演での提示資料例



2022 春 午後のラウンドテーブルの様子

